

# 第30回 さくらの会開催

## 第30回記念の会

### さざんかホール・レセプションホールで開催

112名の方が参加されました！

岡村院長の講義・コーラス・看護師による講義・リハビリ体操などで、

会場全体が盛り上がりました！

今回の内容

大和高田市立病院の歴史・チーム医療・  
治療と仕事の両立支援・リンパ浮腫・  
コーラス・リハビリ体操



アンケートから、たくさんのご意見をいただきました。

- ・久しぶりに大きな声を出して歌いました。
- ・仲間がたくさんいるとわかって元気が出ます。
- ・内容盛りだくさんでよかったです。
- ・大人数おられてびっくりしましたが、みなさん元気にされており、私も元気を出さないと！と思いました。
- ・リンパ浮腫の話がよかった。 などなど。



次回のさくらの会は、平成30年10月に予定しております。  
たくさんのご参加お待ちしております。



## 第30回さくらの会（2018年4月14日）質問と回答

今回は第30回の記念大会となりましたので、さざんかホールで開催致しました。「さくらの会」は、年2回開催しておりますので、実に15年にわたります。本会は主に当院で乳がんの手術を受けられた方が対象ですが、15年の間に1041人の方が当院で手術を受けています。今回も140名余りの参加があり、発足当時の貴重なスライドが上映されるなど、終始、非常に和やかな雰囲気でした。

それでは今回の質問の回答に移らせていただきます。

質問1：抗がん剤で骨密度が低下することがありますか？ホルモン治療を行っていないにも関わらず、骨密度がかなり低下しています。

回答：基本的には、抗がん剤そのもので骨密度が低下することはないと思います。万一抗がん剤治療で、食欲不振が長期に続いて、栄養状態が悪くなったり、あるいは体調が不良となり、長期に寝込んだりすると、骨密度の低下も起きるかもしれませんが、抗がん剤治療中は、治療を行う側も細心の注意を払っていますので、そのようなことはないと思います。一緒に協力して、体調管理を行うことが大切です。

今回の質問にありますように、一般に、女性が骨密度の低下から骨粗鬆症に陥るのは、閉経によって女性ホルモンが急激に低下することが大きな原因です。女性ホルモンを抑制するホルモン治療によって、骨密度が低下するのもそのためです。骨粗鬆症のために、骨折して寝たきりになっては大変です。骨粗鬆症にならないための予防が重要です。一番大切なことは運動で、特に歩くことが骨密度低下の予防に役立ちます。毎日散歩をする習慣を身に付けると良いでしょう。次に大切なことは、食事の摂り方ですが、こちらは単にカルシウムを摂れば良いということではありません。乳がんの手術を受けられた方で、心配な方がおられましたら、当院の優秀な栄養士に栄養指導を依頼しますので、声をかけてください。乳がんが再発しないことが最も重要ですが、健康を維持することもとても大切です。

質問2：以前に乳房切除術を受けましたが、乳房再建について教えてください。乳首も再建する必要があるのでしょうか？

回答：乳房を失うことは、女性にとって、非常に辛いことであると言われていきます。乳房再建について、一緒に考えましょう。

先ず、手術で乳房切除を行う際に、同時再建を行う方法があります。乳頭温

存の場合は、1回の手術で人工乳房の留置まで行うことができます。昨年は、当院で7人の患者さんに同手術を施行致しました。多発乳がんの症例などでは、非常に良い方法ですが、進行した乳がんの方には行うことができません。一方乳頭も一緒に切除しないといけない場合は、先ずエクспанダーと呼ばれる皮膚拡張器を留置し、数か月かけて皮膚を伸ばした後に、人工乳房と入れ替えます。さらに希望の方は、質問でもありましたように、日を改めて、乳頭を人工的に形成します。後述の自家組織再建という手術方法もありますが、少し体に負担のある手術で、当院では行っておりません。

次に、今回のご質問の患者さんのように、すでに乳房切除術を受けられている患者さんは、先程のエクспанダーを留置する手術を受けるか、あるいはご自分の体から筋肉と皮膚を一緒に持ってきて再建する自家組織再建の二つの方法があります。いずれの場合も、乳頭形成術を行うことが可能ですが、胸の膨らみがあれば満足である方は、必ず乳頭再建を行う必要はないように思います。

当院では、5月から毎週水曜日午後から奈良医大から桑原教授など優秀な形成外科医をお招きし、形成外科外来を開始しました。今回のご質問の乳房再建だけでなく、形成外科に関わるお悩みがございましたら、受診をお薦め致します。ご不明の点については、外科外来でご連絡ください。

質問3：術前・術後の補助療法は期間が決まっているので、勤務先に言いやすいですが、再発治療は期間が決められないので、おひとり様としては行き先に不安があります。相談して大丈夫でしょうか？

回答：(山本医療相談員) 医療福祉相談窓口にお越しいただき、不安に思っていることとお聞きし、一緒に不安に思っていることを整理します。また、会社との調整が必要ならば、社会労務士さんを紹介し、会社との仲介をしていただくことも可能です。

(辻本 FP) トータルペインの視点に立ち、ご自身の不安に思うことを紙に記載し、心の不安を整理していきます。本人が、会社で話をしやすい人に相談してみることが一番いいですが、難しいようであれば、奈良県産業保健総合支援センターの社会保険労務士さんを介して、会社との仲介をしていただくことも可能です。

「さくらの会」のメンバー一同、皆さんが再発なく経過すること、いつまでもお元気でいらっしゃること、そして万一再発しても、安らかな気持ちで過ごせることを願っております。

2018年5月8日

大和高田市立病院 病院長 岡村隆仁